

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成25年7月20日発行
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.5

7月6日
土曜コース

哲学する対話をやってみる① ファシリテーターを経験してみても…?



お題を出してくれた6勇士のみなさん+広石さん

本日の問いの「お題」6つ

- ① よく生きるために何をすべきか
- ② 何のために仕事をするのか
- ③ どこからが自己責任か
- ④ よく生きるためには、どのようなことをイメージするのか
- ⑤ 対立する集団は合意できるか
- ⑥ 法律を破るのは、本当に悪なのか



■6つの問いからスタート！

「土曜の朝から物騒なお題を出しまして…」皆の笑いを誘いながら、お題の説明が進む。(クイズ:どのお題の説明でしょう?)今回は受講生から出された問いのお題でチームをつくり、そのお題で対話を実際に行ってみる日だ。グループに分かれたあと、それぞれでファシリテーターを決める。さらっと決まったが…これが苦悩の入り口でもあった！

■悩めるファシリテーター

今回も対話シートに従って、ルールに基づき対話を進めていくはずだったが、意見が飛び交ってしまい、なかなか予定通りにいかない。今、何について話しているのかを明確にするのも大変。ファシリも対話に入っているの？でもお題を出した人のほうが、知識が多く、ファシリに向いてない？ファシリに関して、疑問は尽きない。

■学びの成果は「一言感想にあり」

それでも、受講生は実践からいろいろなことを学んだようである。特に問いが深まっていく様子を体験できた方は、「対話」のおもしろさがわかったのではないだろうか。それにしても、受講生のみなさんの多様な感想は、また新たな気づきを生むものだなあと、感心する。おっと、哲学対話は感心するだけでなく、意見の違いに論点を見つけていくのが大切だった！みなさんもぜひ感想を読んで、ご自身に問いかけていただきたい。

下記に、広石さんが受講生の発表後に挙げたポイントを書きとめておいた。「『自分の問い』を自覚していることで、日々入ってくる情報が増えて、次の考えるヒントになり、豊かな暮らしが生まれてくる助けになるのです。」哲学する意味は、まさにここにあるのであろう。自分の問いを持つ、今でしょ！（湊）

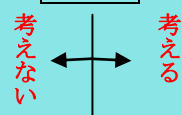
対話を行ってみて・・・
気がついた！

ファシリや対話を行う際に
気をつけること

- ・ 何に対して答えを出すべきか、軸をもっていること。
- ・ 他人との意見の違いに向きあう勇気が必要。
- ・ 深く理解することと従うことは別。答えの理由を理解するように努力する。
- ・ 考えないほうが良いと思われる問いでも、どこからどこまでを考えるのか。

考えなくてもいい理由を知っておく。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・→

前提条件



- ・ いまの論点はどこの部分か、ファシリはそれを明確にする。
- ・ 物事に対する具体的な対応法を考えるほうが「得た感」があり満足度が上がるが、本当に問いたいことを忘れずに。答えが出ない（哲学対話の特徴）しんどさに耐える軸を持つ。
- ・ アジェンダがいくつあるかを理解し、合意できている点と合意できていない点を見つける
- ・ テーマをしぼるとシャープになる。大きなテーマ→具体的に考えると本質が見えてくる。(広石さんまとめ)



お茶の間「だがしや楽校」「自分みせ」の室内体験

「だがしや楽校」開催!

お茶の間



◆準備、自分みせ、そしておしゃべり

最初の30分は自分たちの屋台づくりの準備、そしてそのあとはみなさんで自由に交流。今回の講座を端的に表すとこの一文になる。けれども、この講座の中には、一人ひとりの経験と発想、たくさんのおしゃべりがつまっているのがあった。

◆“見せ方”にひと工夫

それは、屋台づくりをしているときだった。前回、料理の手描き絵カードを持ってきていた受講生の小峯さんが、今回は描く道具も持参されていた。「毎回、『色鉛筆で描いてるんですか』と尋ねられるんですね。本当は水彩なのだ、と見てもらおうと持って来たんだよ」とのこと。なるほど、絵と道具の両方を通して受講生同士の話に華が咲いていた。これこそ物を媒介とした自分みせの一例だ。

さらに、受講生の三谷さんがパーソナリティとなり、それぞれの自分みせ屋台をラジオの対談形式でご紹介。通常のラジオと違うのは、「もっと話を聴きたい!」という時にはすぐに直接話せること。その場で会ってすぐに交流・おしゃべりできる関係、これも『だがしや楽校』の良さの一つだろう。

◆『だがしや楽校』の縦系と横系

最後には、昨年度のだがしや楽校卒業生とも交流。「今年度もにぎやかなだがしや楽校になりそうね〜」と卒業生。実は、だがしや楽校は縦にも横にも広がっている。以前、松田さんも「山形や栃木、静岡など、もちろん杉並にもこれまでのだがしや楽校仲間がいます。みなさんが『だがしや楽校』のキーワードを通して、ゆるやかにつながっていけると面白いですね。」と話されていた。『だがしや楽校』は、地域も年代も超えてつながる力を持っているのだ。(坂本)

《コラム》だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。「この人と一緒に何かしたい!」という方は事務局まで!

2回目は、24年度のだがしや楽校を卒業された、三宮さん。講座内活動として、趣味の漫画を活かして、だがしや楽校を開催した商店街をモデルとしたストーリーを作成されました。まさに、地域活動的漫画家です。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは?



□自分の良さは他の人が引き出してくれる

坂本 (以下、坂): 「最近の様子を教えてください」
三宮 (以下、三): 「グッドハンズ杉並 (24年度卒業生の集まり) の名刺等、デザインもの担当です。今は布に絵を描いて、のぼりを制作中です。」

坂: 「あなたにとって、だがしや楽校とは?」
三: 「人と人が出会う場です。異年齢の集まりなので、自分の良さを引き出してもらいましたね。」

坂: 「読者に向かってひとことどうぞ!」
三: 「“自分みせ”では、見る側での学びも多かったです。他人を通して自分の新たな面を知ることでもできました。」

◆すぎなみ大人“熟”してる?の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。